



箱根本箱  
ハンモックで本と戯れる



人生に悩んだときに訪れるのは本屋じゃなくてブックホテル。日本出版販売の保養所を改装した新コンセプトの宿で、至るところに置かれた1万2000冊の本はすべて購入可能。面白いのは、37名の選書による「あの一の本棚」。横尾忠則氏、石田衣良氏、松尾スズキ氏といった著名人の本箱が推薦文とともに収められている。

■住所：神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320-491  
■Tel: 0460-83-8025 ■客室数：18室 ■料金：1泊2食19,936円～(消費税・入湯税込)、日帰り入浴不可



無垢材に癒される  
強羅花扇 円かの杜



廊下はすべて畳敷き。一歩足を踏み入れたその瞬間から無垢材のぬくもりに包まれる。特筆すべきは湯の質。強羅温泉は大湧谷からの引き湯をしている宿が多いが、この宿には2本の湯量豊富な自家源泉があり、大浴場、客室の湯船とも火山のエネルギーを蓄えたよく温まる温泉が、かけ流しで注がれている(温度調節のための加水あり)。

■住所：神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320-862 ■Tel: 0460-82-4100 ■客室数：20室 ■料金：1泊2食40,150円～(消費税・入湯税込)、日帰り入浴不可



①②ビーズは100種類以上。どのビーズを使うか悩むのも楽しい。デザインを決めたらワイヤーに通すだけ。ピアス・イヤリングは2800円(箱根クラフトハウス Tel: 0460-82-9210、箱根強羅公園の入園料550円別途必要)  
③ 東京から箱根登山鉄道を使って2時間30分程度。電車でも車でも行けるのが箱根のよいところ。



江戸時代に宿場町として開かれた箱根のなかでも明治、大正の頃から富裕層の別荘地として発展してきた強羅温泉は今も文化の香りがする。40万年前から続く火山活動によってできた箱根山から湧く温泉は、大地の恵みそのもの。創造力をかきたてるクラフト体験をした後は、大地の成り立ちや温泉ができる仕組みを学ぶ博物館へと足を延ばす。さまざまな学びの刺激を受けられる場所、それが箱根だ。



マゲマの息吹を感じて湯と憩う

この日の宿泊は「強羅花扇 円かの杜」(写真⑥)。木のぬくもりを感じる宿で、火山のエネルギーを蓄えた自家源泉が冷えた体を温めてくれる。箱根には温泉がたくさんある。湯坂山の麓にある箱根湯本からいままなお噴

旅の始まりは、箱根強羅公園内にある「箱根クラフトハウス」(写真①)から。赤や青、ストライプなどの小さなビーズを組み合わせる、箱根ではここだけという「ヴィンテージビーズ体験」に挑戦した。

17、18世紀にイタリアやオランダなどヨーロッパで作られたヴィンテージビーズは、形が不揃いだったり色が褪せていたり、手づくりならではの味わいがある。生まれ年と誕生日から割り出したラッキーカラーで選んだり、単純に好きな色を選んだり。どんなものを作るかは作り手の気持ち次第。どのビーズを選ぶか、心が躍る。ほかにも吹きガラスや陶芸、とんぼ玉などの体験があり、芸術大学出身の作家たちが手づくり体験を指導してくれる本格派のアート施設だ。



プレゼント情報  
野添さんが作った「イヤリング」1名様♪  
「箱根本箱」で見つけた「しおり」10名様♪



箱根らしいアート体験をしたくて向かったのは、日本初の野外美術館として有名な「彫刻の森美術館」(写真④)。近・現代の野外彫刻約120点のほか、子どもが楽しめる体験型アート作品「ネットの森」や、インスタ映えする「幸せをよぶシンフォニー彫刻」などもあり、三世代旅行にうってつけだ。

2泊目の宿は今話題のブックホテル「箱根本箱」(写真⑦)。本に埋もれる贅沢を味わいながら、新感覚の自然派イタリアンをワインとともにいただこう。

Profile CHIKAKO NOZOE  
旅行作家 野添ちかこ  
観光の専門紙記者を経て、2006年からフリーで活動を開始。『NIKKEIプラス1』(日本経済新聞社)「湯の心旅」、マイナビニュースなどで温泉記事を連載中。著書に『千葉の湯めぐり』。3つ星温泉ソムリエ、温泉利用指導者(厚生労働省認定)、宿のミカタプロジェクトチーフ・アドバイザー。



立ち寄りスポット

大地の成り立ちを学ぶ  
箱根ジオミュージアム  
切っても切れない熱い関係の火山と温泉をさまざまな視点で紹介。■入館料：100円、営業時間：9～16時(無休) ■Tel: 0460-83-8140

日本初の野外美術館  
彫刻の森美術館  
広々とした屋外展示場で彫刻を鑑賞できる、新コンテンツも続々登場。■入館料：一般1600円、営業時間：9～17時(無休) ■Tel: 0460-82-1161

